



アニメ「もったいないばあさん かわをゆく」の一場面。「アニメ もったいないばあさん」公式サイト(<https://mottainai-baasan.com/>)で見られます ©もったいないばあさんプロジェクト



絵本「もったいないばあさん」シリーズ 2004年に第1作が誕生。05～07年には朝小で連載していました。「もったいない」が口ぐせのおばあさんが、みんなのもったいない場面にやってきて、環境や社会の問題を教えてください。シリーズは現在17作を数え、英語や中国語などでも出版されています。

六つの言語でアニメ配信

自然やものの大切さを伝える絵本「もったいないばあさん」シリーズ(講談社)が、アニメになって六つの言語で無料配信されています。環境問題について考えてもらおうと、環境省などがつくりました。作者の真珠まりこさんは『もったいない』の心で世界がもっとよくなってほしい」と願っています。(中田美和子)

インド大使が発案 環境省などが制作

アニメは「もったいないばあさん かわをゆく」もったいないばあさん」の公式サイトなどで見られます。インド大使の発案で、環境省などが制作しました。毎週1作公開が始まりました。6月5日から世界環境デーの6月5日から

もったいないばあさん 世界へ



ずつ追加される予定です。現在は日本語と英語だけでなく、フランス語、スペイン語、中国語、ヒンディー語のふきかえ版が順次、公開されます。

「かわをゆく」では、ペットボトルを川にぽいっと投げ捨てた男の子に「もったいない」。もったいないばあさんが登場します。男の子は、川が生まれて大きな流れになるまでをたどり、川がはぐくむ命、ごみやよこれに苦しむ命を知ります。

アニメ化は、日本にいるインド大使のバルマさんの発案でした。インドでは近年、環境問題への取り組みが本格化しています。インドでも読み聞かせの会があった『もったいないばあさん』を知り、環境問題の教材に提案したそうです。

ふきかえ版ができしだい、環境省がそれぞれの言語を使う主要な国の大使館に働きかけて、広めていく予定です。環境省の担当者は「日本語の『もったいない』という言葉が、そのままでの意味で世界に広まってほしい」と話しています。

みんなの未来のために「うやまう心」を

作者の真珠まりこさんから絵本をかいたきつかけは、当時4歳だった息子の一言でした。ごはんを食べ残していたので「もったいないから全部食べようね」と声をかけたら、「もったいないってどういう意味?」と聞かれたのです。

「もったいない」は、ただむだなことをしないというだけではありません。自然のめぐみ、いたたく命、つくってくれた人への感謝など、他の人やものを大切に思う気持ちがこめられています。

一言でいうと、「うやまう心」です。自分だけが正しい、自分さえよければと思うのではなく、分け合って、他の人が大切に思っていることを、同じように大事に思うことです。

アニメーションとなって、いろんな言語で配信されれば、より多くの人たちに見てもらえるかもしれません。

感謝の心から食べ物や物を残さないようにしたり、ものを使い捨てにしないのは、何かに使えないかなと考える。アニメを見た子どもたちが、「もったいない」の心を持ってくれたらいいなと思います。世界の未来のために。



本人提供

朝顔のハガキ



夏休み、ほくは「ハガキの人」に会いに行った少年2人の、ちょっとホラーな夏休み。
作: 山下みゆき 絵: ゆの
定価1200円+税
第10回 朝日学生新聞社 児童文学賞受賞作

朝日学生新聞社の本 www.asagaku.jp

天声人語

太陽光や風力といった再生可能エネルギーの電力を使う大学や企業が増えています。上智大学は今年から四谷キャンパス(東京都千代田区)で、再生可能エネルギーを使い始めた。キャンパスの使用電力の約95%が再生エネの電力になるといいます▼大手スーパーのイオングループも、大阪府内の2店が使う電力の100%を再生エネでまかなうと3月下旬に発表しました。石炭や石油などの化石燃料を燃やす火力発電は地球を暖める温室効果ガスを出します。それで再生エネへの切りかえを急いでいるのです▼使う電力を100%再生エネにすると言言する国際企業ネットワーク「RE100」への参加も増えてきました。REは再生エネを意味する英語の「リニューアブル・エナジー」の頭文字です。世界では200社を突破、うち日本企業は30社以上を数えます。再生エネの電力が100%という世界が夢ではなくなりそうです。